

食料・環境問題解決のための途上国農業研究能力構築事業 [継続] 【25(31)百万円】

対策のポイント

世界の食料・環境問題への対応能力の強化を図るため、国際連合大学へ拠出し、途上国における研究者の能力開発を推進します。

<背景/課題>

- ・世界の人口増加や気候変動に伴い、食料・環境問題は我が国及び国際社会が共同で取り組むべき課題であり、とりわけ途上国の栄養改善においては、技術革新による生産性の向上を図ることが重要です。
- ・また、食料増産に向けた国際農業研究など、科学技術を用いた課題対応の貢献については、世界からも期待が寄せられています。
- ・このため、地域の実情に合わせ、技術を開発・適用できる能力を有する途上国研究者を、国際的な研究機関の協力を得て育成することにより、途上国の農業研究体制の強化を図り、世界の食料安全保障に貢献することが課題となっています。

政策目標

- 途上国研究者の能力構築を通じて世界の食料安全保障に貢献
- 日本の顔の見える戦略的研修及び日本とのネットワーク強化
- 全て(100%)の研修生が、研修後のアクションプランを作成し、実行する

<主な内容>

- 1. 日本の顔の見える戦略的研修** 17(15)百万円
国際的な農業研究機関等の研究者(ホスト研究者)からの研修提案を審査し、ホスト研究者の下、APEC、ASEAN、アフリカ等の途上国研修生に対する研修を実施します。その際、我が国の農林水産業にも大きな影響を及ぼす研究分野を重点的に採択して国際社会全体の課題対応能力強化を図ると共に、日本人研究者が積極的に関与して研修を推進します。
- 2. 研修のフォローアップ** 4(11)百万円
研修生が自ら研修終了後のアクションプランを作成します。また、ホスト研究者が、研修終了後に研修生のもとに出向き、助言・指導等のフォローアップを行います。
- 3. 研究者間の人的ネットワークの構築と我が国の国際貢献のアピール** 4(5)百万円
優秀な研修業績を挙げた者を日本に招き、顕彰するとともに、国内の研究者との意見交換の機会を設け、日本の研究者との人的ネットワークを構築します。また、2016年にはTICADVIがアフリカで初の開催予定であることから、サイドイベントの開催等により、我が国の貢献をアピールします。

〔 拠出先：国際連合大学(UNU)
事業実施期間：平成26年度～平成30年度 〕

〔 お問い合わせ先：
大臣官房国際部海外投資・協力グループ (03-3502-5913)
農林水産技術会議事務局国際研究官 (03-3502-7466) 〕

食料・環境問題解決のための途上国農業研究能力構築事業

事業概要・目的

世界の人口増加や気候変動に伴う食料・環境問題は、我が国及び国際社会が共同で取り組むべき課題であり、とりわけ途上国の栄養改善においては、技術革新による生産性の向上を図ることが重要

このため、国際的な研究機関の協力を得て、途上国研究者を育成することにより、途上国の農業研究体制の強化を図り、世界の食料安全保障に貢献

事業イメージ

■ 日本の顔の見える戦略的研修の実施

国際的な農業研究機関等の研究者(ホスト研究者)からの研修提案を審査し、途上国研修生に対して研修を行う。

我が国の農林水産業にも大きな影響を及ぼす研究分野を重点的に採択するとともに、日本人研究者が研修に積極的に関与する。

研修課題例:

食料安全保障、越境性病害虫対策、食品安全、気候変動緩和策、植物検疫等の分野

■ 研修のフォローアップの実施

研修生が自ら、研修終了後のアクションプランを作成する。

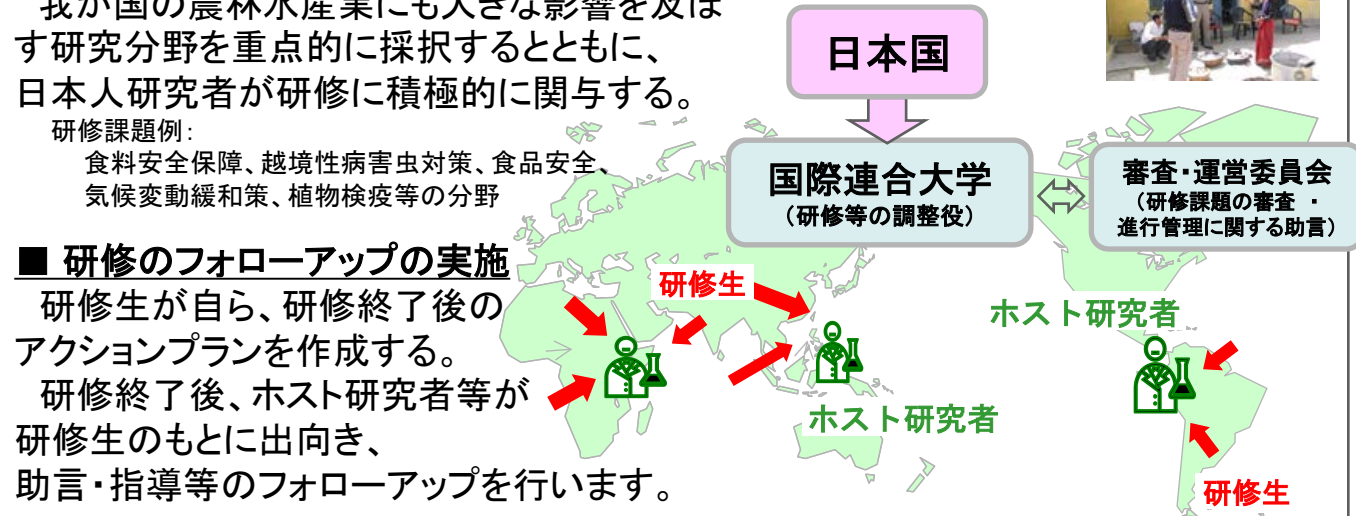
研修終了後、ホスト研究者等が研修生のもとに出向き、助言・指導等のフォローアップを行います。

■ 研究者間の人的ネットワークの構築と

我が国の国際貢献のアピール

優秀な業績を残した者を日本に招き、顕彰するとともに、国内の研究者との意見交換の機会を設ける。

また、TICADVI(2016年開催予定)でのサイドイベント開催等により、我が国の国際貢献をアピールする。



期待される効果

- 途上国研究者の能力構築を通じて世界の食料安全保障に貢献
- 日本の顔の見える戦略的研修を実施し、日本とのネットワークを強化

